

筑波大学新聞

第325号

編集責任
筑波大学新聞
編集代表
福原直樹

TEL: 029(853)2040•6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

エンパワースタジオ	VR技術を体験	2
絶対音感 金管アンサンブルコンサート		5
バスケ	男女共に全国制覇	6
ラクビー	福岡堅樹単独インタビュー	7
ジャカルタ見聞録	日本映画で文化発信を	10
第41回雙峰祭	浪漫あふれた3日間	11

三二特集 3

今年8月設立
筑波大学学生人材バンクに迫る

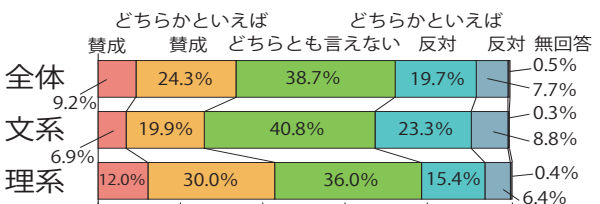
特集 **8,9**

防衛省が公募 問われる大学の軍事研究

賛成が反対上回る

大学での軍事研究
文理で賛否に差

本紙調査



少数点以下第2位は四捨五入のため、合計が100%にならないこともある。

防衛省は今年から、同省が定めた研究課題に取り組む研究者を大学などから募集し、優れたものに資金を出す試みを始めた。これを受け、本紙は筑波大学生600人にアンケートを行い、日本の大学が軍事転用を見すえた技術を研究することの是非を聞いた。この結果、有効回答のうち賛成派は33.5%（201人）で、反対派の27.4%（164人）を上回った。理系学生は賛成が反対の倍を占める一方、文系学生では反対が賛成を上回っている。また「どちらとも言えない」が38.7%（236人）いた。（添島香苗Ⅱ生物学類3年、8、9面に関連特集）

7月8日に行った防衛省の募集は、国の安全保障に役立つ技術研究に最大3000万円を支給する内容。109件の公募があり、東京工業大学の野外での発電技術研究など9件を採択した。

これを受け、本紙は11月に学生アンケートを実施した。その結果「賛成」「どちらかといえば賛成」201人の理由は「軍事転用を恐れていたら、民生用の研究も自由にできない」が128人で最多だった。次いで「大学も日本の防衛力増強に貢献すべきだ」が52人、「世界的には大学軍事研究をするのは普通」が29人いた。

また「反対」「どちらかといえば反対」の学問の場で、軍事とは切り離すべきだ」が96人、「戦いにつながる危険」が63人

「他に予算を投じるべき研究分野がある」が49人いた。一方、文系、理系別に見ると、回答した文系3331人のうち、反対派は32・1%で賛成派の26・8%を上回った。また理系2677人のうち賛成派は42・0%、反対派は21・8%だった。このほか「どちらとも言えない」2332人のうち「問題をよく知らない」が151人と最多だった。

戦後、日本の大学は軍事研究に対し慎重な姿勢をとってきた。だが近年、全球測位システム(GPS)など軍事用にも民生用にも使える技術「デュアルユーズ(軍民両用)技術」が増えている。東京大学大学院情報理工学系研究科は昨年12月、軍事研究を禁止した指針を見直した。

ラグビー部 帝京大の 51 連勝阻止



関東六大学対抗戦が11月29日
に上野公園陸上競技場（東京
都八王子市）で行われ、筑波大
が帝京大を20―17で下し、帝
京大の対学生チームの公式戦連
勝を50で止めた。0―17で前
半を終えたが、後半、一気に逆
転した。（鈴木拓也＝人文学類
4年、写真も。7面に関連記事）

リーダー制機能せず
必要性に疑問の声も

宿舎を
問う



筑波大学の学生宿舎で、上級生が「コミュニティリーダー」として一年生のマナー喚起などを行なう制度が、多くの棟で機能していないことが、複数のリーダー経験者への取材で分かった。リーダーとしての積極性や責任感のなさなどが原因とみられ、全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の調査では、回答者の8割以上が「今までリーダーに質問・相談したことがない」とも回答。宿舎では学生のマナー違反が問題となっており、制度のあり方が問われそうだ。（添島香苗）

学生生活課によると近年、宿舎では補食室やシャワー室などに私物やごみが増えている。このため同課は2011年にコミュニティリーダー制度を導入。宿舎に半年以上入居した経

験のある2年生をリーダーとして募集し、各階1人ずつ配置する。
 同課はリーダーに対し、毎年3月に説明会を実施。共同生活のマナーや防犯への気配りを1年生に伝授したり、入居者の要望を大学に報告することなどを求めている。またリーダーにホ

ワイトボードを支給。連絡先などを書き個室ドアへの掲示も義務付けている。

だが本紙の取材に対してあるリーダー経験者の女子学生は「特に仕事はしなかったと断言。」「シャワールームの排水溝に詰まった髪の毛が放置されるなど、一年生のマナーが気になることはあったが、傳でぞうと思われそで注意しづらかった」と話した。

リーダーには今年度、123人の募集に175人が応募し、抽選で決まっている。だが、応募理由を覆

数の「ダー経験者」に聞くと「綺麗な宿舎に住めるのが圧倒的に多かった。宿舎には改修棟と未改修棟があるが、リーダーは新入生が入居する改修棟に住めるからで、ある男子学生は「1年生の生活を手助けしたい」という理由で応募する人は少ないと思う」と話した。

また、1年生も制度の活用に消極的だ。別のリーダー経験がある男子学生は「ボードに『いつでも相談して』と書き、不在・在室を示していたが1年生の相談はほとんどなかった」と話し

た。これを裏付けるように、全代会が昨年、入居者571人に行った調査で「コミュニティリーダーに相談などをしたことがあるか」の問いには、84・1%の学生が「ない」と回答。また「関わりがない」「いなくても困らない」など、リーダーの必要性に疑問を抱く声も目立った。

戦後の国立医大・高専設置
地元自治体が国に資金提供

地方財政法違反の形で



大谷獎教授

行政資料を検証

行政資料を検証

戦後、国が国立高専や国立医大を新設する際、地元自治体が地方財政法に違反する形で、開設費用などを国に提供した例が多いことが、大谷 奨教授（人間系）の研究でわかった。文部省（現文部科学省）や自治体の担当者らは、同法違反の可能性を知らながらも「慣行」としてこれを黙認しており、同教授は「今後も『官主導』で進められてきた日本の教育制度の実態を分析していきたい」と話している。

（福原直樹）

（福原直樹）

地方財政法では国が教育施設などを設ける際、地方自治体に経費などを負担させることを原則的に禁じている。自治体の財政悪化を避けることなどが、この理由とみられる。

大谷教授によると国は1960年代以降、各地に国立高専を約50設置。また、70年代以降には地方で国立医大や国立大医学部を

大谷教授によると、国高専設置について、「地方財政法の建前はあるが、地方自治体による用地提供は明治以来の慣行」とい

は、明治以来の慣行」とい

会、文部大臣（当時）が

言したり、医大建設に当

り「どこまで協力できる

か」を問いたです。とな

り、部省から自治体に宛

てた文書が残されていた

こと。一方、高専設置に

用を負担していたことを解明した「戦前北海道における中等教育制度整備政策の研究」(学文社)も出版しており、「公立高校や国立大学の改廃再編の論議が活発だが、その際、そもそも誰が(これらの学校の)初期費用を負担したのかについてもっと考慮すべきだ」と話している。

て地元市議会の委員会が「市費で土地などを国に寄付したのは地方財政法違反の疑いが濃い」と議論した例も見つかった。

おもしろ坑 車の運転を始めるど、さまざまな暗黙のルールがあることに気付く。道を譲られた時などに鳴らす「ありがとう」のクラクション。車列に割り込んだ後に点滅させるハザードランプ。ささやかな心遣いが、事故を防いでいる▼世界の自動車メーカーが、自動運転車の実用化に向けてしのぎを削っている。車載コンピュータが道路の白線や標識などの情報を自動的に読み取る。これで、運転者はハンドルもアクセルも使わずに目的地に進める。実用化されれば、人による「運転」は消えていくだろう▼SF作家の星新一は「ゆき」といいた生活」で、ロボットが人間の身の回りのことをすべて行う世界

を描いた。食事を作るのも、服を整えるのもロボットの役目。今日もいつも通りロボットが主人を顧るようなカプセルに包み、職場につながるチューブに入れ送り出す▼だが、話はそこで終わらない。会社の同僚がチューブで送られてきた男が死んでいることに気付くのだ。完璧に仕事をこなせても、ロボットは人間のささいな変化を読み取り、男を助けることができなかった▼自動運転車は右折が苦手という。右折時は対向車の動きに注意する必要がある。人間ならば対向車の運転手と視線や身ぶりて譲り合いのサインを出せるが、自動運転車の技術はまだこうした見極めができない。人の持つ細やかな感情。それに思いを馳せる。

エンパワースタジオ公開 世界最大級 VR 空間に驚き

5メートル巨人の歩行を体験

コンピュータ技術で作られた三次元空間を体験できる「バーチャリアリティ（VR）技術」の展示施設「エンパワースタジオ」が第三エリアに建設され、11月13日に一般公開された。筑波大グローバル教育院の、工学で人の動きや生活を補助する方法を研究する「エンパワーメント情報学プログラム」の拠点となる施設。世界最大級のVR技術を投影するスペースや、身長5.5メートルの巨人になった気分を味わえるロボットなどがある。同施設を体験した。

（井口彩二社会学類3年、12面に関連写真）

■700平方メートルの巨大なバーチャル空間 エンパワースタジオは開発中の装置を試験する部屋



「Big Robot Mk1」に乗る記者。足が伸び、巨人になったような感覚がする（11月12日、エンパワースタジオで）＝広報室提供

や装置の展示室などがある。計約1088平方メートルの施設。まず体験したのは、そのうち700平方メートルある体育館のような部屋でVRを体験できる「Large Space」だった。白い壁で囲まれた部屋に20台の映写機があり、コンピュータグラフィックス（CG）映像を壁に投影して部屋全体が一つの「バーチャル空間」となる。

取材日は欧州の教会の映像が部屋全体に映された。専用の3Dメガネをかけ歩く。3Dメガネには頭の位置などを感知するセンサーが付いている。また、天井からつり下げられた7本のワイヤーを体に着けると、建物を高い位置から見下ろせる。ワイヤーを動かす装置が作動すると体が上に引っ張られる。一気に高さは約6.5メートルに。センサーが高さを感知して映像が変わり、通常の目線では見えない高い位置から教会の内部をのぞくことができた。

■巨人の歩行感覚を体験 次に体験したのは、全長5.5メートルの大型ロボット「Big Robot Mk1」。車輪の付いた脚がある台に乗り、左右交互に進退する車輪の動きに合わせて足を動かすことで、5.5メートルの巨人の歩行感覚を体験できる装置だ。

高所作業車でロボットに

乗り込んだ。高さにひるみ、がっしりと手すりをつかんでいると、ロボットが左足から動き出した。足が左前に引っ張られ、全身が左に傾きよけた。ロボットを開発した岩田洋夫エンジニア（シス情系・教授）から「ロボットの動きに体をあわせて面白いですよ」と言われ体の力を抜くと、自然に歩くことができた。自分の足が何倍にも伸びたような不思議な感覚だった。



現地の様子について話すシリア人留学生（11月15日、つくばサイエンス・インフォメーションセンターで）

中東・北アフリカ週間 シリアの現状知る

11月11～18日の1週間を「MENA Week（中東・北アフリカ週間）」とし、中東や北アフリカの文化や政治を紹介するさまざまなイベントが筑波大学などで行われた。

15日は、シリア出身学生などを招き、つくばサイエンス・インフォメーションセンター（つくば市吾妻）で公開シンポジウム「シリアの声を聴くー内戦、難民、今私たちにできること」を開催。中東・北アフリカ地域の情勢を研究する岩崎真紀助教（人社会系）やシリアに留学した嶋田優奈さん（国総2年）らが講演を行い、難民キャンプでの

生活や、過激派組織「イスラム国」（IS）に破壊された遺跡の画像などを紹介した。嶋田さんは「ISに支配されるまでシリアは平和だった。現地の人々が平和を切望していることを知り、それを周りに伝えることが重要だ」と指摘した。シンポジウムの最後にはシリアの人々のために何ができるか参加者同士で話し合う時間も設けられた。

主催した入江光輝准教授（生環系）は「日本人だけでなくシリア人留学生の声も聞けて良かった。長期的な成果を出すためにもっと多くの人にシリアの現状を知ってほしい」と話した。

参加した中田悠飛さん（比文2年）は「シリアの平和を取り戻すには、実際にシリア人学生の声を聞いたり、シリアに留学した日本人学生の体験談を聞くことが大切だと思った」と語った。（加藤未悠二社会学類1年、写真も）

震災復興シンポジウム

来年1月14日（木）に茨城県総合福祉会館コミュニティホール（水戸市千波町）で行われる。午前の部は午前10時30分から午後0時30分。午後の部は午後1時30分から午後4時30分。

筑波大学の学生が作成したドキュメンタリー映画「いわきフット」の上映や、自然災害についての発表などを行う。

定員は296名。参加無料、申込不要。問い合わせ＝029-853-8491（生命環境系・八木勇治教授研究室）

詳細＝megquake.tsukuba@gmail.com（筑波大学巨大地震プロジェクト）

応援部WINS第4回単独公演

来年1月16日（土）につくばカピオホール（つくば市竹園）で開催される。午後5時30分開場、午後6時開演。

主な演目は「筑波大学応援歌」、リーダーステージ、野球応援メドレーなど。

問い合わせ＝wins.tsukuba.cheer@yahoo.co.jp（筑波大学応援部WINS）

催事

吹奏楽団第74回定期演奏会

12月18日（金）にフバホール（つくば市吾妻）で行われる。午後6時開場、午後6時30分開演。

バレエ音楽「中国の不思議な役人」や「スクーティン・オン・ハードロック」、リンカンシャーの花束などを演奏予定。

チケットは前売り券が400円、当日券は600円。チケット予約・問い合わせ＝usb.inquiry@hotmail

詳細＝http://sound.jp/usb/concert.html（筑波大学吹奏楽団ホームページ）

人社会系教員が学校を訪問

著書を提供、議論行う

筑波大学人社会系は、河合塾の協力を得て、同系の教員が出版した著書を主に高校生に無償で提供し、高校で講師として生徒と意見交換する社会連携事業「学問本オーディオビジット」を10月から開始した。高校生の課外活動を応援することが目的で、高校生が著者と語りながら自由に意見を交換する場として期待されている。

（林健太郎社会学類3年・写真も）

高校生が同事業を利用する際は、計20冊の書籍から希望する1冊を選び、応募。

11月28日に開成中学校（東京都荒川区）で行われた読書会では、竹中佳彦教授（人社会系）が出席。中学

生2人と高校生4人に蒲島

権年齢が18歳以上に変わることや、参議院の存在意義なども議論した。終始和や



中高生と政治について議論する竹中教授（11月28日、開成中学校で）

かな雰囲気でした」と話した。授業後、竹中教授は「今回使用した本は大学生や大学院生を讀者として想定しているが、中高校生から自分の本の内容について積極的な意見を述べてもらい、とても楽しい時間を過ごせた」と語った。

トルクメニスタン大使 「日本と関係深めたい」

トルクメニスタン・日本学生フォーラム2015が11月10日に大学会館で開催され、駐日トルクメニスタン大使らの講演が行われた。トルクメン人留学生や日本人学生など学内外から

約100人が訪れた。フォーラムの前半では、日本人とトルクメン人の学生が集まり、トルクメン語の詩の朗読やトルクメニスタンと中央アジアの大学紹介が行われた。



日本とトルクメニスタンの友好関係について語る大使（11月10日、大学会館で）

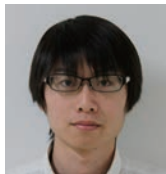
エリヤソフ・グルバンマンメト特命全權大使は「今年10月に安倍晋三首相がトルクメニスタンの首都アシュガバートを訪れ、首脳会談した際、経済協力の実施を目指すことなどで一致した。両国の関係はもう一つ、協力も深まった」と強調

学生は「筑波大学にはトルクメン人の学生が少ないので、こうしたイベントで日本人学生との交流を深めたい」と話した。（テポレビ・マリヤムII図書館情報メディア専攻1年・写真も）

訂正とおわび

324号2面の杉田倫明教授（生環系）の研究についての記事で、写真の著作権はJICAにある旨を掲載しておりませんでした。おわびして訂正します。

記者の声



森脇 慎

経団連は先月、来年度に卒業する大学生の就職活動について、面接など採用活動の解禁を8月から6月に変更すると発表した。8月解禁は今年実施されたばかりで、たった一年での変更だ。来年就活を控える身としてはこのような朝令暮改には困惑する。一体、経団連は学生の声をきちんと聞いているのだろうか。

急な方針転換に困惑 学生の声に耳傾けて

就活時期の変更は、2013年に安倍晋三内閣が平成27年度から就活時期を遅らせるよう経済界に求め、実施された。説明会などの広報活動解禁はそれまでの大学3年12月から3月に、面接解禁時期が大学4年4月から8月に変更された。狙いは、学生を勉強に専念させたり、日本と学期制が違う外国の大学からの帰国が遅れる留学生に配慮することだった。

だが、この目算は外れた。本紙が筑波大生に行った取材では、卒業論文の執筆への影響が明らかになったほか、「実質的に長期化しており、精神的につらい」といった声があった。

また、経団連所属企業の採用活動が遅れた一方、そうでない企業は優秀な学生の「囲い込み」を狙い要請を受け入れず、従来の日程のままだったことも問題だった。

だが、今回の変更はあくまでも短期的な対応で、これからの批判を受け、経団連は来年の採用活動の解禁日を8月から6月にすることを決定。経団連の榊原定征会長は来年も今年と同じ日程なら、問題が繰り返されかねない」と説明した。

えるこの時期の急な決定は、学生にまったく配慮していないという東京都内の私立大3年生の男性の声を掲載。日本経済新聞は「就活期間が短くなるのはうれしいが、6月だとテストや課題提出の時期と重なる」という国立女子大3年生（20）の声を紹介していた。

一方、5〜6月に行われる教育実習と重なることを懸念する声も目立っている。私事で恐縮だが、変更の結果、私も6月と11月の年に2回しか実施されない資格試験を、就活前に受けられなくなつた。

また、榊原会長は「すべての関係者が納得する日程を検討したい」と話すが、就活の解禁日はいつに設定しても一長一短だ。新卒一括採用が始まってから、解禁時期は

何度か変更された。批判を受け変更すると新たな問題が浮上し、また変更する……という動きの繰り返しだ。8月解禁も、多くの問題点が指摘された。

繰り返すが今回の変更の問題は「急すぎる」という点だ。全国の大学が就活のあり方について議論する「就職問題懇談会」は現状維持を経済界に要請していたが、結局変更を受け入れた。今の大学4年生の声を取り入れた結果だろう。だが、今後就活を行う3年生の声には耳を傾けたのだろうか。方針が決定された以上、学生は変更を受け入れるしかない。大学側は今後、このような急な時期変更がないよう、しっかりと学生の声を聞いてほしい。（筑波大学新聞編集長・社会学類3年）

筑波時評

今年10月の厚生労働省の発表資料で、平成26年度に児童相談所が対応した児童虐待相談対応件数速報値が8万8000件と報告された。生活の基盤であり、本来情緒の安心と身体的安全を保証さ

児童虐待 保護所の拡充が必要 子育て支援にも投資を

る家庭内での暴力は、家族の発達や心の健康に深刻な影響を与える。そこで虐待の予防や子育て支援について3点提案したい。

1点目は虐待に対応する児童相談所職員や一時保護所の拡充である。慎重かつ迅速な判断や対応の取り組みだ。死亡事例もを一時保護する施設も満員で、本来居室ではない廊下などで寝起きする場合もある。家族から離れた不安な子どもが安心して暮らす環境整備が必要だ。

2点目は、妊娠期からの取り組みだ。死亡事例の半数以上が0歳児で、思いがけない妊娠で人に相談しづらい場合が多い。養育困難が予測される家庭を妊娠中に産科で判定し、家族に継続的な支援を行う地域の保健センターと連携して産後も支援を継続すべきだ。保

安藤 智子 教授（発達臨床心理学）



人間系・教授。2007年お茶の水女子大学大学院修士、博士（人文科学）。山脇学園短期大学専任講師などを経て13年から現職。主著に「子育て支援の心理学」（有斐閣、共編著）などがある。

が必要現場にも関わらず、児童福祉司が話し合いをする時間を随時十分に確保することが難しいのが現状だ。数多くのケース例を抱える職員が長時間労働でバーンアウト（燃え尽き症候群）することも危惧される。子ども

反射鏡

食材選びの基準は？

日本やアメリカ、オーストラリアなど太平洋に面する12カ国が参加する環太平洋パートナーシップ協定（TPP）が、10月5日に大筋合意に達した。協定が発効されれば、牛肉や豚肉などの輸入関税が段階的に引き下がるほか、野菜では、キャベツやホウレンソウ、トマトなど多くの品目で現在3%の関税が即時撤廃される。消費者は外国産の農産物を安く買いやすくなるが、日本の基準と異なる農薬の量や種類などの安全性に疑問を示す人もいる。筑波大学生はスーパーなどで買い物する時、どのような基準で食材を選ぶのか。第一エリア食堂と第二エリア食堂で聞いた。（岡田優太Ⅱ社会学類1年、田中開Ⅱ教育学類2年）

好きなクリスマスの曲

クリスマスまであと少し。街中の至るところでさまざまなクリスマスソングが流れているが、筑波大学生が好きなクリスマスソングは何か。中央図書館前などで聞いた。（徳永翼Ⅱ日本語・日本文化学類1年、石川泰行Ⅱ社会学類1年）

【人文2年・女性】 バイト先のフードコートで、中でもこの曲は特に好きで、イギリスの2人組ミュージシャン、ワムーの「フストクリスマス」がずっと流れている。耳に残るメロディなのでつい思い出し口ずさんでしまう。

【日理1年・女性】 「ジングルベル」を聴くと、もうすぐクリスマスという感じがして気分が高まる。幼い頃聴いていたので愛着がある。

【教育2年・男性】 日本のロックバンドBack Numberの「クリスマスソング」が好き。音楽にあまり興味がないの

【体育1年・女性】 食品によって気にする点は異なる。肉製品は産地を見て決めるが、野菜は価格で選ぶ。

【人文2年・男性】 野菜や肉は国産しか買わない。海外のものは農薬などの基準が日本とは異なる場合があり、口にするのが不安。国産は安心・安全なイメージがある。

【物理1年・男性】 つくば市に住んでからは、茨城県産の野菜を買うことが多い。安いし近場で栽培されているので新鮮。外国産の野菜は買わない。

【人文1年・女性】 ベーコンなどの加工品に添加物が入っているのを見ることが多い。無添加の食品を買うようにしている。

【情報3年・男性】 野菜や肉製品は価格で選ぶ。だがコメだけは国産のものを選び、品種も気にして買っている。

【社会学3年・女性】 近くのスーパーにつくば市で採れた野菜の販売コーナーがあり、いつもそこで野菜を買う。生産者の情報があるから、安心感がある。ただ肉製品は特にこだわりはなく、安いものを選ぶ。

【体育2年・男性】 肉製品も野菜も、国産へのこだわりはない。基本的な値段と内容量を見て購入に余裕がある時は国産のものを買う。

【心理3年・女性】 国産と外国産で価格が大幅に変わらない場合は国産を選ぶ。だが、特に肉製品は国産の方がおいしいイメージがあるので、金銭的に余裕がある時は国産のものを買う。

【化学専攻2年・男性】 野菜は産地に関係なく安いものを買うが、加工品の場合は原産国を確認する。



イラスト：姉崎信（心理学類3年）

学校出身で、「讃美歌コンクール」の時に、この曲の指揮者を務めたから。クラスの皆で頑張って練習して楽しかった。

【社会学1年・女性】 ワムーの「ラストクリスマス」が好き。初めて歌詞を完璧に歌えるようになった洋楽曲で印象深い。

【比文3年・男性】 B'zの「いつかのメリークリスマス」が好き。B'zに昔はまって何回も聴いていたので、今も耳に残っている。

【人文3年・男性】 マライア・キャリーの「恋人たちのクリスマス」が好き。元々洋楽が好きで、この曲は歌詞やメロディがかなり気に入っている。

【国総2年・男性】 松任谷由実の「恋人はサンタクロース」が好き。この曲を聴くと昔の恋人を思い出す。



イラスト：姉崎信（心理学類3年）

【国総1年・女性】 ジョン・レノンの「ハッピークリスマス」が好き。出深い。キリスト教系の中

帝京大から大金星

後半 17点差逆転

【上柚木公園陸上競技場（東京都八王子市）で鈴木拓也Ⅱ人文学類4年、写真も】関東大学対抗戦が11月29日に行われ、筑波大は既に5連覇を決めている帝京大に20―17で勝利した。帝京大は2012年12月の筑波大戦で敗れて以来、大しチーム相手に公式戦50連勝を続けていたが、その記録を止める大金聖を挙げた。筑波大の最終成績は5勝2敗となり4位以上が確定し、12月から始まる全国大学選手権の出場権を獲得した。

関東大学対抗戦

ラゲビー

ラグビー

筑波大は前半19分までに3トライを決められ、0-17と大量リードを許す苦しい立ち上がり。だが中盤以降は帝京大にミスが目立ち追加点を与えなかった。一方、攻撃陣は何度も敵陣に攻め込みゴールラインに迫ったが、帝京大の固いディフェンスを崩せなかった。

後半はブレイクダウン(タックル後のボールの奪い合い)を修正した筑波大が流れをつかんだ。4分に亀山宏太(体専4年)がペナルティーゴールで3点を返し、12分には鈴木啓太(同2年)がトライ。その後も積極的に攻め続け、30分に稗田優志(同4年)のトライで13-17と4点差まで迫ると、35分には再び鈴木がトライを決め、逆転。試合終了間際に帝京大に攻められるが、最後まで守り切り、後半は得点を許さず逃げ切った。

古川拓生監督(体育系・准教授)は「後半に試合の流れをしっかりとめた。後半は帝京大をシャットアウトでき、『やったな』という気持ちになった」と話した。

集中しミスを修正

 觀戰記

「帝京大戦に向けて対策はしてきたが、あくまでも自分たちのプレーをすることにこだわっていた」。試合後、古川拓生監督（体育系准教授）はこう振り返った。帝京大は2012年12月以降、学生チームには公式戦50連勝、全国大学選手権6連覇中の強豪。筑波大も今年の大学選手権決勝で7-50という大差で敗れていた。そんな最強チームが相手であることを意識し

降は得点を許さなかった。歴史的な勝利にも、筑波大に慢心はない。古川監督は「帝京大は既に対抗戦優勝を決めていた。そこに生まれた（気持ちの）ゆるみに入り込めたのかもしれない」と話し、帝京大の岩出雅之監督も選手の気持ちに「一方で、この勝利でチームは大学選手権に向け勢いづいた。古川監督は「スクラムや連携など、チームは成長している」と手応えを感じている。この勢いのまま、初の日本一を勝ち取ってほしい。（鈴木拓也）」

「次回はチームを引っ張る」

——初出場となったW杯を振り返って。

初戦で南アフリカに勝利するなど、歴史的な瞬間に立ち会えたのは光栄です。

——日本代表の練習や試合で得たことは。

栄養管理や体のケアに対する意識が高まりました。栄養管理などの大切さは、筑波大ラグビー部の

選手にも少しずつ伝えていきます。

——筑波大のスポーツ環境は、設備や研究施設は整っている

く、そうした選手の活躍を見ると自分の励みになります。

状では、世界レベルの日本人選手は出てこない」と指摘しています。

顔の

今年9月に行われた日

を生かして全国2位になった。高校生になると、1年生の時からインターハイに出場し、6位。2年生の時は2位、3年生では3位に入った。

だが、どうしても1位

思っていた
同じスイ
ルの先輩の
成26年度休
卒）にあこ
進学すると
ムマイトに

選手権で、序盤から前に出るそのままりードを保ち大会新記録で優勝した。「本番をイメージして練習を重ねることが記録につながったと話す。また、練習や大会で

西脇に先着できるようになった。「今では西脇を良きライバルと考えるようになった。互いに教え合い、競い合うことが、成長につながっていると感じる」

A swimmer is shown from the chest up, wearing a black swim cap and goggles. They are in a pool with blue water, and a yellow lane divider is visible in the background. The swimmer's head is above water, and their arms are extended forward.

齋藤ゆり子 (体専1年)

ただけはなれなかった。表彰台の一番上には、常に西脇伶奈（体専一年）がいたのだ。「西脇は雲の上の存在だった。この頃はただただ敵わない」と、

まで以上に練習に打ち込み、特に得意のストロークを強化するために筋トレに力を入れた。

努力は裏切らなかつた。8月の全日本国公立

ライバルの存在が力に

り、大学でプレーしたいという中高生は多い。ですが本当に日本のラグビーを強くしたいなら、大学を経ずにトップリーグに行く選手が多くていいはずですよ。

また大学に所属しながらトップリーグに参加できるような制度を作ってもいいのでは。いずれにしても変えなければいけないところだと感じています。

一方で大学ラグビーの底上げも必要だと思います。例えばトップリーグの経験者が体作りや技術的な知識を伝えるなど、大学とトップリーグが繋がっていくといい。

——今後の進路は。
まずはトップリーグでプレーしたい。ラグビー人生の最終的な目

大学選手権 目標は日本一

標は、2019年のW杯日本大会と20年の東京五輪。今回のW杯はベテランの廣瀬俊朗選手（東芝）たちに精神的に支えられました。今後は代表のスターメンに定着して、チームを引っ張る存在になりたい。

東京五輪後は、医者になりたい

です。競技の経験がある医者は選手手線からのアドバイスを送れ、選手からも信頼されやすい。リーグの代表経験がある医者は日本にほとんどいないので、トップレベルを経験した医者のパイオニアになりたい。

——大学生活最後の全国大学選手権への抱負は。

関東大学対抗戦で、帝京大の公

戦車5連勝を止め、勢いをつけられました。もちろん、勝ったことに慢心せず、まずは予選を突破したい。大学ラグビーの集大成として、またW杯を経験した身として、責任あるプレーでチームをさらに勢いづけたい。目標は国立大初の一勝です。

◆

福岡堅樹（ふくおか・けんき）
1992年9月7日、福岡県生まれ、23歳。5歳の時にラグビーを始めた。福岡高3年の時に全国高校ラグビーに出場。2012年に筑波大に入学。大学2年春に日本代表初招集。ポジションは左ウイング。50メートル5秒8。175センチ。



ラグビー W 杯日本代表福岡堅樹

問われる大学の軍事研究

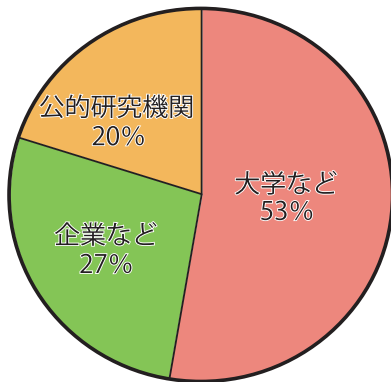
防衛力の強化が背景

【1面続き】防衛省は国の安全保障に役立つ研究に取り組む研究者を、大学や民間企業から募集し、9月に東京工業大学など4大学を含む計9件を採択した。採択した研究には最大で年3000万円を支給する。防衛省が研究者に直接資金を出すのは初めてで、公募の背景には日本の防衛力の強化や軍事用にも民生用にも使える技術の増加がある。戦後、日本の大学は軍事研究に慎重な立場をとってきたが、今後どう向き合っていくべきか。筑波大の学生や教員らの意見を聞いた。（林健太郎、森脇慎、山野拓実、社会学類、中垣吉彰、心理学類、添島香苗、生物学類）

今回の公募で防衛省は、を行うことや成果を公開する「我が国の防衛」や「災害派遣」「国際平和協力活動」などを目的に▽空中における衝撃波の可視化▽複数の無人車両などの運用制御▽ナノファイバーによる素材の高性能化……など28個の研究テーマを設定。内容は基礎研究とし、国内で研究

ような、軍事用にも民生用にも使える技術は「デュアルユース（軍民両用技術）」と呼ばれ、近年増加している。このため科学研究では軍民の線引きは難しいという指摘もある。公募の背景には、安倍晋三内閣が防衛力の強化を進めてきたことがある。昨年4月、政府は武器の輸出を原則禁止した武器輸出三原則Ⅱを撤廃。新たに防衛装備移転三原則を定め、武器の輸出入を認める方針に転じた。また、今年9月には安全保障関連法が成立。これにより、日本と密接な関係国が攻撃された際の自衛隊の武力行使が可能になり、他国軍への後方支援なども拡大する。

防衛省への応募内訳



応募総数 109 件

武器輸出三原則Ⅱ 1967年に佐藤内閣が、武器輸出について（1）共同産国（2）国連決議による武器禁輸対象国（3）国際紛争の当事国またはその恐れのある国に武器輸出を認めない……の方針を表明。76年には三内閣がこの方針を定めていた。武器輸出を禁じた。

条件付きで認める大学も

国内には、軍事研究に関して方針を定めている大学がある。今回防衛省の公募で採択された東京工業大学は、2005年に指針を策定し、今年10月16日に一部改正した。研究の内容が基礎研究に当たる場合、成果を公開するなどの条件で認めている。新潟大学は06年に科学は定めていない」と回答した。また筑波大も、11月30日時点で指針を定めていない。

筑波大学の教員は、日本の大学が軍事につながる研究を行うことについてどう考えているのか。文系の教員の意見聞いた。

■文系教員Aさん

大学で軍事に関わる研究を進めることに抵抗はない。軍事研究が民生用にも必要な技術力を高めることは、歴史的にも明らかだ。核兵器などの大量破壊兵器を作るための研究なら止めるべきだと思うが、今回募集されたのは軍事だけでなく、民生用にも転用できる「デュアルユース技術」の研究。それを無理やり止めることは、技術革新のための研究の否定につながる。

■理系教員Bさん

そもそも「軍事研究」の定義が難しい。研究費をもらう相手が民間の企業たりネットワークを壊したりするサイバー攻撃への対策が急務だ。サイバー攻撃は近年増加しているが、日本は対策で海外に遅れをとっている。国や大学が予算を投じ、コンピュータに関する高度な知識や技術を持つ人材を育成すべきだ。

■理系教員Cさん

核兵器など大量破壊兵器の研究には反対だが、大学が自国の防衛に役割を果たすことには賛成。特に、コンピュータを乗っ取ったりネットワークを壊したりするサイバー攻撃への対策が急務だ。サイバー攻撃は近年増加しているが、日本は対策で海外に遅れをとっている。国や大学が予算を投じ、コンピュータに関する高度な知識や技術を持つ人材を育成すべきだ。

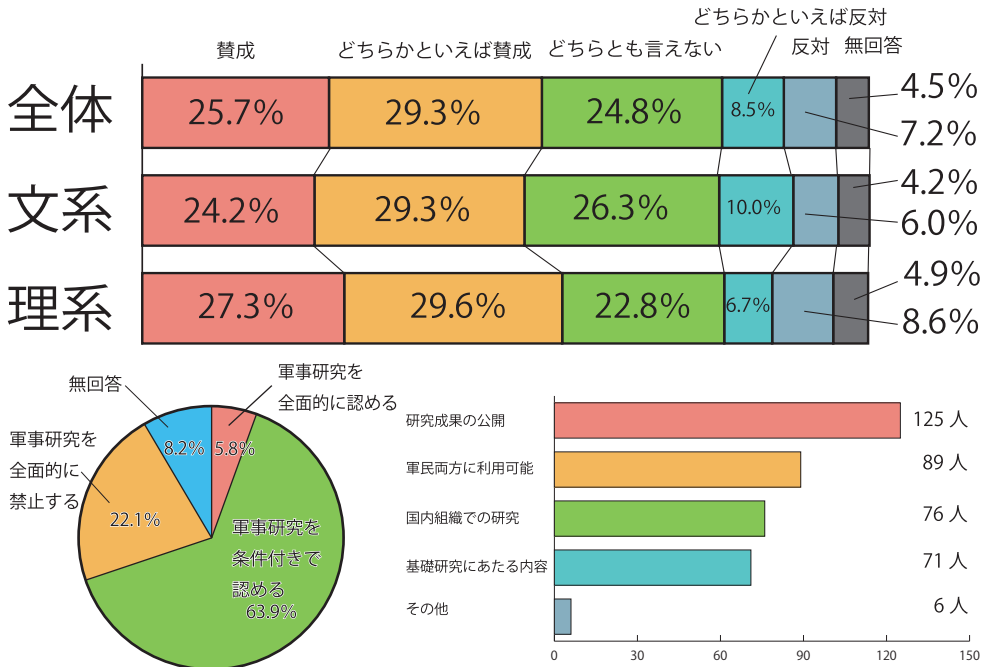
過半数「方針定めるべき」

日本の大学では軍事研究についての方針を策定する動きもあるが、11月30日現在、筑波大は軍事研究に関して方針を定めていない。本紙は筑波大の学生600人を対象に行ったアンケートで、筑波大が方針を定めることへの是非や求める方針の内容を聞いた。

【筑波大は軍事研究について方針を定めるべきか】「賛成」と答えた学生は55.0%（330人）で過半数を占めた。「反対」「どちらかといえば反対」は15.7%（94人）、「どちらとも言えない」が24.8%（149人）だった。

理由を複数回答で聞くと、賛成派の理由は、「軍事研究に対する大学としての姿勢を明確に定めるべきが253人。ついで、研究者自身が戸惑うことのないようにすべき」が96人、「他大学が方針を打ち出し、賛成派に」とのような方

筑波大は軍事研究について方針を定めるべきか（上）、方針を定める場合にどのような方針にすべきか（左下）、軍事研究を条件付きで認める場合に必要だと思う条件（右下）小数点以下第2位は四捨五入のため、合計が100にならないこともある。



【定める方針の内容は】「賛成派に」とどのような方

◆調査方法

11月18～28日に、学群の授業や課外活動団体のミーティングなどで大学と軍事研究に関するアンケートを実施。設問は7項目。文系331人、理系267人、文理無記載2人の計600人から回答を得た。学群別の内訳は、人文・文化104人、社会・国際63人、人間41人、生命環境91人、理工91人、情報51人、医19人、体育専門17人、芸術専門3人、大学院18人、無回答が2人だった。

学群別の文系・理系は、所属する学群で分類した。人文・文化、社会・国際、人間、体育専門、芸術専門は文系。生命環境、理工、情報、医は理系とした。

大学院生の場合は専攻で分類。現現、芸術は文系。数学専攻、物理専攻、物材、社工専攻、リスクは理系とした。また、研究科のシス情を記載した学生が3人、同じく数物が2人いたが、いずれも理系とした。

「軍事研究 技術力高める」

■文系教員Dさん

軍事研究にはインターネットのように民生用として役立つものもあり一概には否定できないが、大学が積極的に軍事研究を行うことには反対だ。

■文系教員Eさん

現在、日本では軍事に特化した研究は防衛産業が担っており、大学は戦前の反省から軍事研究とは一線を画してきた。戦後の日本のこうした姿勢は国際的に評価されており、これを変えるべきだ。

「大学は一線を画すべき」

方針を固め、直ちに歯止めをかけるべきだ。

近年、大学が軍事研究に関わる傾向にあることの背景には、大学の運営費削減があると考えられる。研究者が十分な研究費を得るために、外部資金の獲得が必要だ。この状況では、7月に防衛省が行った公募のような高額な研究費が得られる制度に研究者が流れてしまうのも理解はできるが、賛同しかねる。これを防ぐために、筑波大学を含めた全国の大学で軍事研究を禁ずる方針を固め、直ちに歯止めをかけるべきだ。

防衛省が公募



掛谷英紀准教授

防衛省が大学などの研究者を対象に、国の安全保障に役立つ技術研究の公募を行った背景は何か。また大学が軍事研究を行うことについてのメリットやデメリットがあるのか。工学倫理に詳しい掛谷英紀准教授（シス情系）に聞いた。

（聞き手・林健太郎）

――防衛省が大学などの研究機関を対象に、今回の公募を行った背景は。

大学が軍事研究を行うメリットとデメリットは。

メリットは、大学の持つ高い技術を利用して戦地のような過酷な条件下でも確実に動く信頼性の高い技術

具体的なシナリオの議論を

背景には、日本を取り巻く安全保障環境の変化がある。例えばこれまで日本は米国との同盟関係で国の安全を保ってきたが、現在、米国は軍事的影響力が低下している。また中国が軍事的に台頭しているほか、北朝鮮も核開発を行うなど周辺地域が不安定になっている。このため、日本は防衛力を増強せざるを得ない状況になっており、大学の研究を軍事に活用する動きが出てきたのではないかと、大学が軍事研究を行えば、瀬戸大橋には船舶レーダーの電波反射を防ぐ塗料が使われているが、この塗料はステルス機への応用が可能だ。研究者自身が民生用と考えていても、簡単に軍事用の攻撃兵器に転用される恐れもある。

視点

徹底した議論必要

今回の学生アンケートでは、文系と理系の考え方の違いが浮き彫りになった。日本の大学が軍事への転用を見据えて研究することの是非について、文系は反対派が32・1％で賛成派の26・8％を上回った。これに対し、理系は賛成派が42・0％で、反対派21・8％の約2倍に上った。

防衛省の公募は来年度以降も行われる。軍事用と民生用研究の線引きが不透明な状況で、大学は軍事研究とどう向き合っていくべきか。文理の認識の違いも考慮に入れながら、徹底した議論が求められる。（添島 香苗 Ⅱ生物学類3年）



撮影地 二の矢学生宿舎

自分の真上を通った獲物に振りかざし、一瞬にして巣の奥まで引きずり込んでしまう。雄は成体になると、歩くのに適した足の長いすらっとした姿にかわり、雌を求めて餌も食べずに歩き回るといふ。その姿の違いから当初は別種とされていた。筑波大学構内の全域に生息していると考えられ、それほど数は少ない。このクモを忘れないでいたら、きっと出会ったことが出来るだろう。写真 文Ⅰ葉原良輔 生物Ⅰ年、野生動物研究会



吉瀬章子教授

筑波大学の全学生は体育の授業が必修だ。サッカーにダンス、柔道。さまざまな種目があるが自分はこの種目にしようか。第一希望のダンスは人気だから、定員を超えてるだろう。抽選に落ちたら不人気な種目に回されてしまう。こんなふうな迷い、望まない種目を受ける学生は昨年まで大勢いた。この問題を解決したのが、吉瀬章子教

最適な組み合わせを算出

体育の種目選択で実用化

最小にする学問だ。工場生産計画や道路保全計画の効率化などに使われる。

この研究が、今秋から筑波大学の「体育」の種目選択で実用化された。体育では希望種目を選ぶが、種目ごとに定員があ

するなどしてやりたくない競技に回される場合もあった。

吉瀬教授らが開発したシステムは、ウェブサイトで学生に種目ごとに履修したい度合いを1〜5

点の点数でつけてもらい、コンピューターで全

員分のデータを分析する。これまでの第一週の授業で学生全員が体育館などに集合し、第一希望の種目のコーナーに集まるといふ方式を取っていた。定員を超えた種目は抽選が行われるが、漏れた場合は第二希望の種目の元へ。だが多くの種目で希望者が既に定員に達しない人が出ないよう「満

足度の底上げ」を図るために最適化モデリングの理論を取り入れた。学生数が多いため、コンピューターが不可欠だ。この仕組みの導入で、第一週から授業を行えるようになったほか、教職員の手間も大幅に削減さ

「最適化モデリング」を用いれば、例えば飲食店の従業員の最適なシフトを組むこともできる。「ベテランと新人を同じシフトに入れない」「ある人とある人は仲が悪いので別の日に働いてもらいたい」などさまざまな要望に対応。皆が働きやすいシフトを組める。

「最適化」のプロジェクトを進める上で苦労するのは「数式を使って人や物を動かすことに抵抗を感じる人が多い」（吉瀬教授）ことだとい

「最適化」の授業が、一度プログラミングの結果を見せると効率の良さに魅力を感じ、「最適化モデル」を取り入れようと検討してくれる」と吉瀬教授は話

「最適化」の授業は、1年後復学した。そのため私は94年入学だが99年卒業である。

筑波大の体育専門学群は、多くの競技で大学ス



手紙

1994年に筑波大学体育専門学群に入学した。もともとアイスダンスの選手だった私は、推薦入試に合格。入学後は千葉県松戸市にあったリンクと学校を行き来する生活だった。宿舎に入居していたが、リンク近くの松戸市内の実家で暮ることが多かった。

大学入学当初から競技と授業の両立に苦しんだこともあり、2年生になると同時に休学してアメリカで1年間修行をし、1年後復学した。そのため私は94年入学だが99年卒業である。

筑波大の体育専門学群は、多くの競技で大学ス

で、一科目2単位だった。これらの授業で聞いた話では、頭の残った人、少しく、自分の属する世界と少し違ふ世界、でも同じスポーツとして共通点もある世界の裏話を聞き、また私からも様々なことを語ったことは今も忘れられない。

卒業後も競技を続け、

成10年度体育専門学群

卒）

筑波での学び 指導に生かす



Copyright © Koichi Nakamura

元フィギュアスケートアイスダンス選手 トリノ五輪日本代表

木戸章之 さん

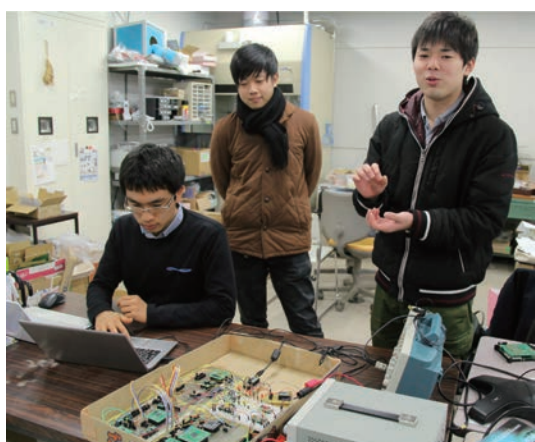
と競技の愚痴を言い合っていた。これが実に楽しく、自分の属する世界と少し違ふ世界、でも同じスポーツとして共通点もある世界の裏話を聞き、また私からも様々なことを語ったことは今も忘れられない。

卒業後も競技を続け、

成10年度体育専門学群

卒）

「結」チーム 15 万円の寄付集める 2 号機打ち上げに向け



電気回路の試験の説明をする永田さん（右）（12月2日、総合研究棟Bで）＝田中開撮影

筑波大学生が製作する小型人工衛星「結」の開発チームは、2 回目の衛星の製作資金を支援するために、インターネット上で寄付を募るクラウドファンディングを使い、総額約15万円の寄付を集めた。寄付金は衛星製作には、筑波大学大学院のシステム情報工学研究科が宇宙空間での温度や真空環境下で動作するかどうかを調べる試験装置の使用料や、衛星に搭載する部品代に充てられる。

これまで「結」の開発・製作には、筑波大学大学院のシステム情報工学研究科が宇宙空間での温度や真空環境下で動作するかどうかを調べる試験装置の使用料や、衛星に搭載する部品代に充てられる。

「結」の1号機は2011年3月に開発を開始。13年2月に宇宙航空研究開発機構（JAXA）のロケットの相乗り衛星として打ち上げられたが、内部に何らかの不具合が生じ衛星からの電波を受信できず、昨年6月末に大気圏に突入し消滅した。昨年7月からは目標金額の10万円を突破した。寄付者には、寄付金額に応じオリジナルのTシャツなどの特典が贈られる予定だ。

チーム代表の永田晃大さん（エシス3年）は「多くの寄付が集まり、本当にありがたい。これから作業は



日本映画で文化発信を

【ジャカルタで平嶋健人】社会学類4年、写真もインドネシア・ジャカルタで先月26日から今月1日、過去最大規模となる日本映画祭「新作満喫！日本映画とアニメーション2015」が開催された。6日間の期間中に「桐島、部活やめるってよ」や「舟を編む」「小さいおうち」といった近年のヒット長編11作品と短編アニメ19作品がそれぞれ2回インドネシア字幕で上映された。

「蝸ノ記」の上映会を覗いてみた。同作は「博士の愛した数式」で知られる小泉監督が手がけた映画で、江戸時代の武家社会を描いた時代劇。「切腹」や「封建制度」を題材としており、小泉監督も「難しいテーマだから、受け入れてもらえぬ心配」と漏らしていたが、客席を見て驚いた。180席ほどの客席がほぼ埋まっていたのだ。

質疑応答でも次々に手が挙がり、上映後には小泉監督の周囲に人だかりができるほどの盛況ぶり。観客に感想を聞くと「琴線に触れる素晴らしい映画だった」「美しい日本の風景に感動して涙が出た」など、好意的な感想が目立った。

小泉監督に日本語で熱心に話しかける女性があった。以前から好きだった俳優の岡田准一さんの出演した映画で、映画関係者によると、邦画の海外上映には字幕制作にコストがかかるほか、上映先が限られるなど商業的な障壁があるという。

だが商業面ではなく、映画の文化交流的な側面に注目する声もあった。

観客の反応に感動したという小泉監督は「映画は言葉を超えて楽しめる」と実感した。日本の文化や歴史を知ってもらうためにも、映画は大事な表現手段だ」と話し、もっと日本映画を海外に発信すべきだと主張した。

映画祭を共催した一般社団法人ジャパン・イメージ・カウンスルの富山加津江理事長も同意見を述べた。「映画を見れば、今の日本の社会や文化を瞬時に理解してもらえる」と話し、「例えば日本から劇団や歌舞伎を呼ぶより、はるかに低コストで日本文化を紹介できる」と邦画の可能性を強調した。

インドネシアは世界有数の親日国で、世界第2位の約90万人の日本語学習者がいるとされる。ジャカルタでも映画は気軽に立ち寄れる庶民の娯楽。人口増加と経済成長により、映画市場は今後も拡大する見込みだ。

満席の回もあり、どの作品も好評だった映画祭の活況を見る限り、日本文化の発信にアニメやマンガだけでなく、邦画を活用する手もあると感じた。



上映後に観客から質問を受ける小泉監督（左）（11月28日、ジャカルタで）

美しいロシア文化体感

モスクワ市立教育大学（ロシア）増田康介

モスクワに来て2カ月半。周りの生活にもようやく慣れました。日本の皆様お元気でしょうか？

思えば、今年3月にロシア語圏諸国を対象とした人材育成プログラム「GEINIS」(大学の世界展開力強化事業)の海外研修に参加し、同プログラムの留学を決意したことが、私を大きく変えました。毎日が目まぐるしく過ぎ、気付けばもう今年が終わりに差し掛かっています。

モスクワといっても私は中心地から少し離れた物静かな地域の寮で暮らしています。毎日目がまぐるしく過ぎ、気付けばもう今年が終わりに差し掛かっています。

モスクワといっても私は中心地から少し離れた物静かな地域の寮で暮らしています。毎日目がまぐるしく過ぎ、気付けばもう今年が終わりに差し掛かっています。



美しいロシア文化体感

色んな言語が飛び交います。「国際共通語は英語！」と言われるご時世ですが、寮生活でのやり取りはすべてロシア語です。寮ではロシア語の授業も行われており、整備された環境で語学学習に励んでいます。

留学先のモスクワ市立教育大学は、モスクワ市内に複数の学部とキャンパスがあります。モスクワ市内には中国人やイタリア人が住み、自然に触れられます。寮のフロアには中国やロシア人が住み、自然に触れられます。寮のフロアには中国やロシア人が住み、自然に触れられます。

留学先のモスクワ市立教育大学は、モスクワ市内に複数の学部とキャンパスがあります。モスクワ市内には中国人やイタリア人が住み、自然に触れられます。寮のフロアには中国やロシア人が住み、自然に触れられます。



人に伝わりやすい話し方について講演する白濱さん（11月29日、BiViつくばで）

ラジオ司会者講演 伝えるコツ教える

優れたコミュニケーションの技術を持った人の講演などで、「伝えるコツ」を多くの人に教えることが目的のイベント「スパーア・レゼンテーション」つくばが11月29日にBiViつくば（つくば市吾妻）のつくば総合インフォメーションセンターで開催された。実行委員会のメンバーの多くは筑波大生だが、他の大学の学生や社会人、高校生も運営に携わっている。

午後2時30分からの講演では、つくば市のコミュニケーションFMラジオ局「ラヂオつくば」のパーソナリティを務める白濱優子さんが、自身の就職活動などから学んだ「ありのままの自分を他人に伝える方法」など、人に伝わりやすい話し方について講演した。講演後、白濱さんは「自分の話す技術が人の役に立てば」と思い引き受けた。うまく伝えられた気がする」と話していた。

実行委員会代表の後藤琢磨さん（障科1年）は「準備や運営が上手くいかないこともあったが、本番は無事に終わり良かった」と語った。（前名裕一写真も）

大学の学生や社会人、高校生も運営に携わっている。午後2時30分からの講演では、つくば市のコミュニケーションFMラジオ局「ラヂオつくば」のパーソナリティを務める白濱優子さんが、自身の就職活動などから学んだ「ありのままの自分を他人に伝える方法」など、人に伝わりやすい話し方について講演した。講演後、白濱さんは「自分の話す技術が人の役に立てば」と思い引き受けた。うまく伝えられた気がする」と話していた。

実行委員会代表の後藤琢磨さん（障科1年）は「準備や運営が上手くいかないこともあったが、本番は無事に終わり良かった」と語った。（前名裕一写真も）

（教育学類3年）

留学先の写真展示

海外の様子伝える

学生や教職員が留学先や旅先で撮影した写真を展示する「GCC（グローバル・コミュニケーションズ）海外体験写真展」が、10月30日から11月24日までチューデント・コモンズで行われた。

この写真展は、留学経験者の「自分の留学の経験を学生たちに伝え、書類だけでは分からない渡航先の様子を伝えたい」という要望を受け、昨年から開催している。今年は学生だけでなく教職員からも写真を募集。ドイツやミャンマーなど計20カ国の観光地や食べ物に加え、現地の人々の様子を写した写真20点が展示された。

主催したグローバル・コミュニケーションズ機構の担当者は「写真を集めて、学生が世界各国に留学していたことが分かった。写真を見た留学生から『展示されている写真の場所へ留学したい』という声があるなど、予想外の反響があった」と話した。（岡田優太）

秋季スポーツデー開催

寒空のもと汗流す

第39回秋季スポーツデーが11月14・15日に中央体育館などで開催された。両日悪天候で、ソフトテニスなどの「正式競技」やアーチェリー部などの練習を体験する「体験教室」など中止・順延・会場変更を余儀なくされた競技もあったが、多くの学生や教職員が汗を流した。

スポーツ・デー学生委員会が主催する「学生委員会企画」では、柱からひもでぶら下がったボールをラケットで打つ「スピードボール」などの種目が開かれ、参加者は肌寒い中競技を楽しんだ。スピードボールに参加した鈴木萌子さん（社会学4年）は「初めて体験した競技だった。実行委員会の人と共に競技ができて楽しかった」と話した。

学生委員会の上岡大起さん（物理3年）は「準備は大変だったが参加者が競技を楽しむ様子を見てやりがいを感じた」と語った。（前名裕一、12面に関連写真）



第41回雙峰祭 浪漫あふれた3日間

イラスト=姉崎信 (心理学類3年)

落合助教が模擬授業

11月7・8日、筑波大学の教員が模擬授業を行う「筑波塾」が3A棟で開催された。8日に行われた落合陽一助教(図情メ系)の授業の内容は、コンピュータグラフィックス(CG)の歴史や自身の最先端の研究など多岐の分野に渡った。筑波大生やつくば市民だけでなく、茨城県内外から来場者約80人が訪れ、立ち見が出るほどの大盛況となった。

落合助教は、コンピュータ技術を使い芸術作品を生み出す「メディアアーティスト」として国内外の歴史や自身の最先端の研究など多岐の分野に渡った。筑波大生やつくば市民だけでなく、茨城県内外から来場者約80人が訪れ、立ち見が出るほどの大盛況となった。

落合助教は、コンピュータ技術を使い芸術作品を生み出す「メディアアーティスト」として国内外の歴史や自身の最先端の研究など多岐の分野に渡った。筑波大生やつくば市民だけでなく、茨城県内外から来場者約80人が訪れ、立ち見が出るほどの大盛況となった。

その後、落合助教が2010年にメディアアーティストの世界的な祭典で最優秀賞を受賞した「The Eye Writer」を紹介した。これは、難病の「筋萎縮性側索硬化症」(ALS)を患う芸術家の眼の動きなどを追跡する装置を使い、目線の動きで絵を描くプロジェクトだ。同助教はこれを「芸術と技術を組み合わせた新たな社会運動」と強調。「メディアアーティストや技術で社会を変えられる」と話した。



メディアアートについて語る落合助教 (11月8日、3A棟で) =新田萌夏撮影



「ミス筑波」に選ばれた菅原さん (11月6日、石の広場で) =森脇慎撮影

個性で魅せる

菅原さんは、筑波大の放送サークル「筑波放送協会」(THK)に所属している。「永田恭介学長が来年のつくコレに出場する」とが決まった」という虚構のニュース原稿を読み、会場を笑いの渦に包んだ。

つくコレは昨年始まった企画で、今年はミスター筑波に6人、ミス筑波に3人の候補がエントリー。6日の前夜祭で候補者がそれぞれの特技を披露するなど自分の魅力をアピールした。

各水槽の前では会員が生物の生態や特徴について解説した。食草などで自分を見かけたら話しかけてほしい」と話した。菅原さんは「周りの人に『投票したよ』」と喜びを語った。

筑波大で水族館

うみのいきもの展

7・8日、海洋研究会による海に生息する生物を集めた「うみのいきもの展」が1B棟で行われた。

海洋研究会は、遠方の海で素潜りなどを行う学生サークル。展示された生物は静岡県下田市や千葉県館山市などの海で会員自らが捕獲・飼育したもので、ミノカサゴやネコザメなど約10種。会場には水槽がずらりと並び水族館のようだった。

昆虫の標本や生態を紹介する「ザ・むし・ワールド」が7・8日に2A棟で行われた。テールにすき間無く並べられた昆虫の標本に、子ども向けに自然や生き物の大切さを教えるイベントなどを開いてきた。

会場では、「つくばバグ」のメンバーが採集したチョウやカブトムシなどの昆虫を展示。アリの巣やバッタなどに扮したメンバーが昆虫の生態について説明した。

昆虫の標本を展示

「ザ・むし・ワールド」の昆虫の標本や生態を紹介する「ザ・むし・ワールド」が7・8日に2A棟で行われた。テールにすき間無く並べられた昆虫の標本に、子ども向けに自然や生き物の大切さを教えるイベントなどを開いてきた。

会場では、「つくばバグ」のメンバーが採集したチョウやカブトムシなどの昆虫を展示。アリの巣やバッタなどに扮したメンバーが昆虫の生態について説明した。

政治カフェ開催 議員と話し合う カフェのようなりラク スした空間で、今の日本の政治について多様な切り口から議論する政治カフェが11月28日に7A棟で行われた。茨城県内の地方議員4人と学生24人が参加した。

受け、ある議員が「若者の政治への関心が低下していることは自分たちも十分理解している。どのような選挙なら投票に行きたいか教えてほしい」と話し、より良い選挙の方法や若者の関心を集めるような政治の在り方について議論した。

カフェを主催したNPO法人ドットジェイビーの学生スタッフ、田中真弥さん(国総1年)は「政治カフェへの参加を通して、政治への関心を高めてほしい」と語った。

参加した男子学生は「政治について話したり議員に会うのは貴重な機会なので、参加して良かった」と話した。(石川泰彦)

アイドル研究会

アイドルの魅力伝える



学園祭のステージで躍るメンバー。笑顔が輝かしい (11月7日、石の広場で) =アイドル研究会提供

女子18人の計34人で活動している。男子はアイドルのライブDVDを見た、バンドを組んで「も」などのつくば市内のイベントで披露する。また、こうした活動の成果を10月に開催された「食と酒 東北祭り」などのつくば市内のイベントで披露する。

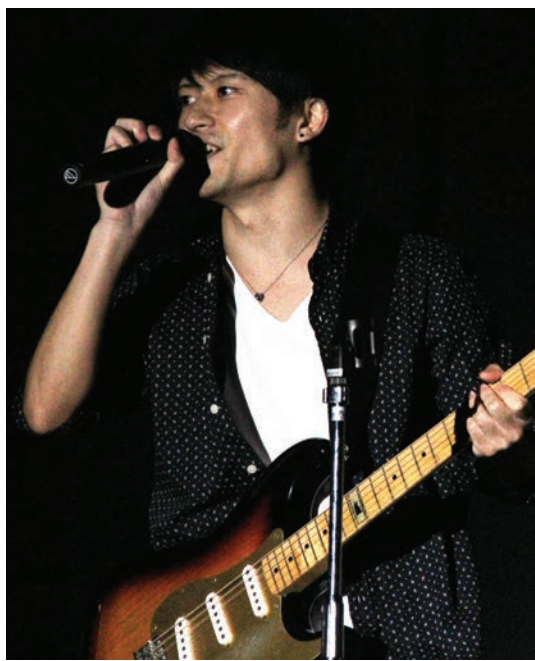
活動の集大成が雙峰祭のステージだ。今年は11月7日の本祭1日目に石の広場の「UNITED STAGE」で12曲を踊り、1日棟でバンドメンバーが17曲を演奏した。

当日、華やかな衣装に身を包んだメンバーがステージに登場すると、会場からは大きな歓声が上がった。観客のペンライトがカラフルに会場を彩る中、メンバーは完璧なダンスを次々に披露した。会場の熱気が最高

Who's Who?

今年の雙峰祭で「ミスター筑波」に選ばれた

西巻 祐 さん（知機 2 年）



前夜祭でパフォーマンスを披露する西巻さん（11 月 6 日、石の広場で）＝森脇慎撮影

11月6―8日に行われた第41回雙峰祭のミス・ミスターコンテスト「TS UKUBA COLLECTION 2015（つくコレ）」で、6人の出場者の中から「ミスター筑波」に選ばれた。「全然自信がなかったのですが、とにかく驚きでした」とほかにむ。大の音楽好きで前夜祭のパフォーマンスで

はギターを披露した。昨年4月には4人組ロックバンドを結成。ギターを担当しており、月に1、2回ライブに出演したりCDを自主制作するなど、精力的に活動している。千葉県印西市出身。兄の影響で幼い頃からロックバンド「Arc〜en〜Ciel」をよく聴いていた。そのう

ち自分でも演奏したくなり、中学1年の冬、親にギターを買ってもらった。毎日欠かさず練習し、自分で作曲することも。中学3年の時には友人とバンドを組み、高校の文化祭で初めてステージに立った。2010年に筑波大学の工学システム学類に入学。軽音楽サークル「E.L.L.」の活動に熱中した。ここでも仲間とバンドを組み、練習に日夜励んだ。「大学生活の中で一番輝いていた」と振り返る。3年生の10月にサークルを引退すると、音楽漬けの日々から一転し、夢中になれるものがなくなった。「刺激がなく、毎日が過ぎるのが早かった。バンドをやりたい、という思いが日に日に増していった」

その後就職活動し、大手医療機器メーカーからの内定を得たが「本気でバンドをやりたい」という思いをあきらめられず、内定を辞退した。親からは反対されたが「なぜ今就職しないの

音楽漬けの大学生活 観客の笑顔が生きがい

か、「なぜバンドをやりたいのか」などをレポート用紙4枚にわたって書き上げ、押し切った。昨年、筑波大学大学院システム情報研究科に進学。サークルで知り合った後輩と中高の同級生3人を誘い、4月に「INK PUNK（インク・パンクス）」を結成した。メンバーで作曲・作曲し、現在13曲のオリジナル曲がある。今年9月には、アマチュアバンドコンテスト「HOTLINE」の千葉エリアで、438組の出場者の中から第2位にあたる「優秀賞」を受賞した。バンド活動を行う上では、発信することを大切にしている。知ってもらいたく、きつかけを少しでも多くつくるためだ。楽曲のプロモーションビデオやギターの演奏を動画サイトに積極的に投稿しており、「演奏する姿が格好よくてびっく」「ボカルの声が素敵」など好評だ。また今年5月からJR柏駅前で、一人で弾き語りライブもしている。「最初は恥ずかしかったが、肝

が据わってきた。自分の演奏で人を笑顔に出来ることに、「生きがい」を感じたという。つくコレへの参加を決めたのも、バンドを少しでも多くの人に知ってもらいたためだ。つくコレでは11月6日の前夜祭で、各出場者が歌などのパフォーマンスと、特定のお題に沿った演技を披露。それらを基に約2日間学内の7カ所の投票箱とインターネット上で投票が受け付けられ「ミスター筑波」「ミス筑波」が決まるしくみだ。西巻さんは得意のギターを演奏し、歓声を浴びた。また「長年付き合っていた彼女に感謝の気持ちを伝える」というお題で演技を披露し（会場を沸かせた。「演技の台本を考えるのが大変だった。終わった時はほっとした」

大学院卒業後は、バンド活動に本腰を入れていく。「バンドで夢を与えたい。食欲に自分の人生にチャレンジしてきたい」

（佐々木修里「人文学類1年」）

編集後記

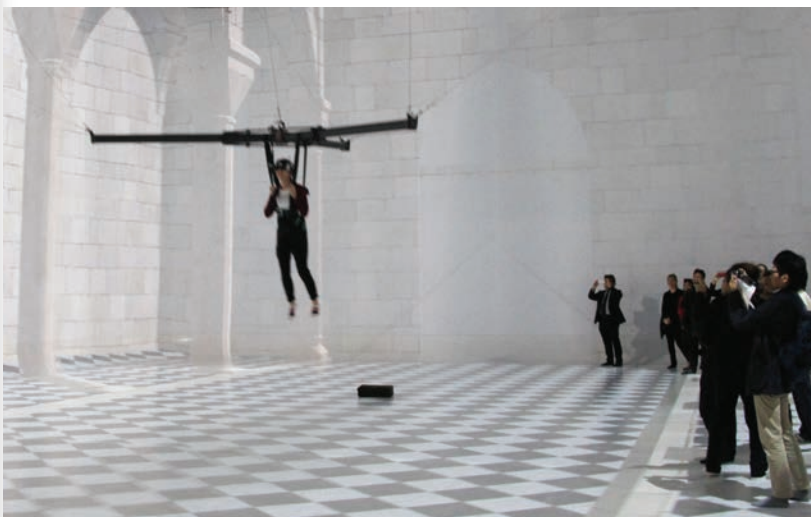
11月は体育系の部の躍進が目立ちました。バスケットボールでは男女共に全国制覇、蹴球部は関東大学リーグで1年での1部復帰、柔道では能智亜衣美選手（体専2年）が体重別の日本一を決める講道館杯で優勝、ラグビー部は帝京大学が学生チーム相手に続けていた公式戦の連勝を50で止める大金星を挙げました。▼筑波大学は体育系の活動が盛んです。各部が強豪ぞういなのはもちろんですが、研究施設としても世界的に優れています▼しかし、ラグビー部の福岡堅樹選手（情科4年）は、7面に掲載したインタビューで「一部の選手が施設を活用しきれない」と問題を指摘しました▼裏を返せば、これを改善すれば、さらに良い成績が残せるということでしょう。スカウティングに優れた私立大学が全盛の時代、国立大学の雄として更なる活躍ができるように期待します。（編集長・森脇慎「社会学類3年」）

次号は

1月25日（月）

発行予定です

エンパワースタジオ公開



壁に風景が投影されたVR空間で飛行体験をする本紙記者（11月12日、エンパワースタジオで）＝広報室提供

2面へ

DANCE EXPRESS



ステージで応援メドレーを披露する筑波大学応援部 WINS（11月18日、中央体育館ダンス場で）＝橋野朝奈撮影

5面へ

つくばマラソン



一斉にスタートする選手たち（11月22日、総合研究棟D前で）＝前名裕一撮影

6面へ

秋季スポーツ・デー



学生企画「SD コロシウム」で、盾を手に球を投げ合う参加者（11月14日、陸上競技場で）＝前名裕一撮影

10面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活